（第２号様式）

神奈川県教育委員会教育長　殿

令和５年３月 31 日

県立小田原高等学校長（全日制）

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 20 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、特性や地域・学校の実情等を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントに取り組む。	①SSH を見据えた教育課程の編成及び運用の検討を重ねるとともに、生徒の自己実現に向けた履修指導を行う。 ②主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践に向けて取組の充実を図る。 ③新学習指導要領に基づく教育課程について検証を行い、検証結果を基に令和５年度教育課程の編成を行う。	①SSH を見据えた本校独自の教育課程の編成及び生徒の履修希望科目に沿った講座の編成や時間割の作成に努める。 ②校内及び公開研究授業等を通じ、生徒の主体的かつ論理的思考力の育成を目指した授業を実践する。 ②SSH を目指す理数教育推進校として、探究活動を通し課題解決能力及び表現力の育成に取り組む。 ③新学習指導要領に基づく教育課程について検証を行い、次年度以降の教育課程編成の検討を行う。 ③生徒の履修希望科目に沿った教育課程編成や時間割の作成に努める。	①生徒の履修希望科目に沿った講座の編成及び時間割の作成ができたか。 ①SSH を見据えた教育課程について検討できたか。 ②「生徒による授業評価」において、課題解決に関する評価項目（３と６）の回答のうち、50％以上が「（項目４）かなり当てはまる」であったか。 ②生徒が主体的に探究活動に取り組み、成果を表現できたか。 ③学校組織全体でカリキュラム・マネジメントを推進できたか。 ③生徒の履修希望科目に沿った教育課程編成や時間割の作成ができたか。	①現行の教育課程を見直し、探究活動を中心とした新たな教育課程の編成を行うことができた。 ②11 月実施の第２回目「生徒による授業評価」において、評価項目３及び６の「（項目４）かなり当てはまる」の回答はそれぞれ 60.0、57.0％と目標値を上回った。 ③現在運用中の教育課程について検証を行い、若干の調整及び改良を行った。 ③新学習指導要領の基づく教育課程が、令和４年度入学生から実施されたが、新学習指導が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、各教科で探究的な活動を行う場面や ICT の利活用を促進した。 ③単位制に伴う複雑な教育課程を、時間割を工夫することで、実施することができた。	①今後は週単位数（現行は 33 単位）や１コマ当たりの時間数（通常は 65 分）の見直しなど大幅な改変も視野に入れて検討していく。 ②後期に入り、1・2 年次ともに本格的な探究活動を行い、よい成果を得ることができた。次年度に向けて教員の指導スキルの向上を目指す。 ③SSH として特色ある教育課程となるよう、引き続き検証を行うとともに、それを基に本校の生徒に合った教育課程となるよう見直しを行っていく。 ③生徒が希望する進路の実現に向けて、各教科・科目等の時間配分について、改善の余地がないか、今後も検証していく必要がある。	①生徒の履修希望に対応した講座編成になっているか、学校組織としてカリキュラム・マネジメントが推進できたのか、検証はきちんと続けていただきたい。 ②授業評価で目標値が達成できているのは、日頃の先生方の努力によると思われる。	①生徒の履修希望に対応した講座及び時間割の編成に努めた。 ①各教科の意見を踏まえた教育課程の編成を検討した。 ②主体的に探究活動に取り組み、年次探究活動発表会等でその成果を発表し、共有することができた。 ②校内授業研究や公開授業研究会等を通じて、生徒の論理的思考力及び課題解決能力のさらなる育成を目指し、組織的な授業改善に継続して取り組んでいく。 ③新学習指導が示す「主体的・対話的で深い学び」の実現のため、各教科で探究的な活動を行う場面や ICT の利活用を促進できた。また、単位制に伴う複雑な教育課程を、時間割を工夫することで、実施することができた。	①今後とも生徒の履修希望に対応した講座及び時間割の編成に努める。 ①SSH としての教育課程の編成や指導内容について検討を重ねる。 ②外部機関と連携し、生徒の知的好奇心を向上させ、探究活動のさらなる充実を図る。 ③生徒が希望する進路の実現に向けて、各教科・科目等の時間配分について、改善の余地がないか、引き続き検証していく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①学校行事、部活動、委員会活動を更に充実させ、その活動を通じて、人間形成を図り、全人教育を実践する。 ②生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制をさらに充実させる。	①学校行事、部活動、委員会活動における課題解決を目指し、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る。 ②教育相談全体支援会議と職員が協力して支援が必要な生徒の対応にあたる。	①行事や部活動等で職員の助言等のもと、生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じて、必ずしも過去の取組に捉われず、その解決を目指すよう指導する。 ②教育相談全体支援会議で支援を必要とする生徒の情報を集約し関係職員と共有しながら適切な支援を行う。 ②中間検討会資料や新たな教育課題に関する資料を適切に作成して生徒の情報共有や教員の資質向上に資する。	①行事や部活動等で生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じて、新たな工夫等も考えながらその解決を目指すことができたか。 ②職員が本校の支援体制を理解し、支援が必要な生徒の情報を共有し適切な支援を行うことができたか。 ②中間検討会や新たな教育課題に関する資料を作成・配付し、支援が必要な生徒の情報共有や教員の資質向上に資することができたか。	①行事に関しては、コロナ以前の通常実施に近づけた。ノウハウが引き継がれにくい中で生徒、職員が密にコミュニケーションをとり、円滑な運営がされていた。 ② 支援が必要な生徒の情報を組織的に共有し、適切な支援を行うことができた。 ② 中間検討会では、支援が必要な生徒の情報共有を行い、生徒に対する支援の方向性を円滑に共有することができた。	① 終了した行事に関しても、アンケートを実施するなどして振り返りを行い、次年度以降の行事が有意義なものになるように生徒会生徒、職員とコミュニケーションを密にとっていきたい。 ② 今後も引き続き支援が必要な生徒の情報共有を行い、適切な支援が行われるようにする。 ② 中間検討会後に支援が適切に行われているか、職員とコミュニケーションを密にとれるようにする。	①行事ではコロナ感染対策を講じながら、生徒が主体となって企画・運営する行事を行うことができた。 ① 部活動においては、運動部、文化部ともに全国大会へ出場するなど、成果を残すことができた。 ②教育相談全体支援会議での情報共有を密に行うことができた。	①コロナ対策を継続しつつ、前年度以上に地域・保護者に開かれた行事を企画できるようにする。 ①運動部、文化部ともに活発な部活動が展開されるようにする。 ②支援を必要とする生徒に、よりよい支援を行えるようにする。	①生徒会生徒への助言、指導を密に行い、生徒主体の行事が運営さえるよう支援する。 ①部活動インストラクターを活用するなど、外部の指導者も含めた指導体制の充実を図っていく。 ②SC や SSW との連携をさらに密にし、より良い解決方法を探れるような体制づくりに努める。

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 20 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が進路希望の実現を達成できるよう、目的意識を持たせて学習意欲を高め、自主的に人生設計ができる資質を育む等、進路指導の充実を目ざす。	学習指導と連携し、生徒の進路希望を共有して教科における学習活動やキャリア学習の機会を提供し、生徒を支援する体制を整える。	①生徒の進路希望の実現に有益な学習の機会を提供してきめ細かなサポートを行い、進路や学習に対する意識を高める。 ②実力試験等の結果から年次ごとの特徴を分析し、適した働きかけを行い、実力を伸ばす支援を行う。	①キャリア行事や模擬試験等に、目的を理解して積極的に取り組んでいるか。 ②難関大学への合格者数、進学者数の進路実績。	①生徒の進路希望の実現に有益な学習の機会を提供してきめ細かなサポートを行い、進路や学習に対する意識を高めた。進路説明会、先輩大学生と語る進路学習会、インターンシップ、模擬試験等を実施。 ②実力試験等の結果から年次ごとの特徴を分析し、適した働きかけを行い、実力を伸ばす支援を行った。生徒には進路説明会で分析報告、職員には会議で分析報告し、強みや弱点、伸ばすべき点等を共有した。	①キャリア行事や模擬試験等に、目的を理解して積極的に取り組むことができた。引き続き、 目的を理解して積極的に取り組むことができるよう支援に努める。 ②難関大等への合格者数、進学者数については今後の結果を見守る。	①大学や他校の状況等を把握し、より生きた鮮度の高い指導体制を構築されるよう期待している。 ②難関校の合格者増と人間育成の両方の実現を目指してほしい。	①調査を通じて生徒の進路希望を把握し、結果を共有した。また、キャリア行事において充実した学習の機会を提供することにより生徒の進路実現に向けた支援を行うことができた。 ②模試の結果を分析し、過年度比較、他校比較の資料を作成し、職員で共有できた。	①目的を理解してキャリア行事に取り組む環境を提供すると共に、模試や入試のデータ分析結果等の情報を進路説明会や面談等で生徒と共有して支援していく。 ②本校の年次ごとの学力の特徴を確実に分析し、外部の資源の活用や校内での取組を柔軟にかつ時宜に適した形で行っていく。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	①生徒一人一人の幅広い学力の育成のため地域等の教育力を活用する。 ②地域に開かれ、地域と共にある学校を目指し、学校の教育活動の情報提供や学校運営協議会の促進等を行う。	①地域と連携し防災訓練・研修会等を実施する。 ①地域貢献活動等を計画して積極的に参加・実施する。 ②学校説明会・学校カミングデー・県西地区合同説明会等を開催、参加して地域から信頼される学校づくりを推進する。 ②ホームページを充実させ、日々の教育活動を誰が見ても分かりやすく提供する。	①防災避難訓練（年２回）実施での職員間の連携及び生徒が適切に身を守る行動ができたか。また地域と連携して防災活動を実施することができたか。 ①コロナ禍で制約がある中、できる限り地域貢献活動を実施できたか。 ②学校説明会・学校カミングデーの開催及び県西地区合同説明会等に参加して目的を達成できたか。 ②地域に開かれ、地域と共にある学校を目指し、学校の教育活動の情報提供や学校運営協議会の促進等を行う。	①生徒の生命を守る防災避難訓練は予定通り実施した。（年２回） 第１回避難訓練 4 月 28 日実施 第２回避難訓練 12 月 23 日実施 ①地域貢献活動はコロナ禍の制約の中、地域貢献活動を実施した。 地域貢献活動（3 年）10 月 8 日実施 地域貢献活動（2 年）10 月 26 日実施 地域貢献活動（1 年）11 月 17 日実施 ②校内で企画・立案した学校説明会・学校カミングデーの開催は予定通り実施できた。また公私合同学校説明会においても、幹事校として運営にあたり参加し目的を達成できた。 ②ホームページの更新頻度がやや低く、日々の教育活動に関する情報提供にタイムラグが生じている。	①コロナ禍で制約がある中、地域との連携し防災訓練等が実施できなかったので来年度は実施実現したい。 ①地域貢献活動はコロナ禍の制約の中、地域貢献活動を実施したが 来年度はプラスチック等の海岸清掃など行えるよう企画検討する。 ②今年度は県西地区合同説明会がコロナ禍で実施できなかったので来年度は実施したい。 ②各グループとの連携を密にして、配信する情報の収集に努めるとともに、定期的に更新できるようなシステムを検討する。	②現在の小田高の様子や今後の取組みについて、生徒や保護者にとどまらず、地域等に広く発信していく必要がある。	②地域とともにある学校を目指し、今後さらに情報発信を積極的に行っていく必要がある。	②授業や部活動の様子だけでなく、SSH の取組みなどについて、様々な方法で、地域に発信できるようにしていきたい。
5	学校管理 学校運営	①生徒の目標を達成するため、学校内外の人的・物的資源を活用し、教職員の人格的資源・専門性の向上を図る。 ②教職員全体で事故防止に取り組む。	①学校運営協議会の部会の活性化を図る。 ②職員の意識改革及び同僚性の向上により、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①既存の取組だけでなく、新たな取組と部会の活動を関連づける。 ②時期に合わせてテーマを精選し、定期的に事故・不祥事防止研修会を実施する。 ②「成績処理」マニュアルの活用を徹底する。 ②「入学者選抜」について、実施要項に更なる工夫を加えるとともに研修会を実施し事故防止の徹底を図る。	①人的・物的資源を活用し新たな取組を進めることができたか。 ②事故・不祥事防止に向けた職員の意識が向上し、同僚性の高い職場環境を整えることができたか。 ②職員が「成績処理」マニュアルに基づいて成績処理を行ったか。 ②「入学者選抜」の実施要項に基づいて事故防止を意識して業務を遂行することができたか。	①学校運営協議会の各部会委員の助言・支援を受けながら SSH を見据えた準備など、新たな取組を進めることができた。 ②月に１度、主に啓発・点検資料を活用し、事故・不祥事防止研修会を実施することで職員の意識を向上させることができた。また朝の打合せ等でも意識啓発を深め、同僚性の向上に努めた。 ②成績処理においてマニュアル通りに業務を遂行するよう周知徹底を図ってきたが、年度末に成績に誤りのある通知表が配付されてしまい、事故を未然に防ぐことができなかった。	①学校運営協議会の部会をさらに活性化させ、地域の企業や大学等、外部との連携を進め、教育活動を充実させていく。 ②年次ごとに職員室が分かれているという物理的要因を超えて、同僚性の高い職場環境を整えるための工夫・改善を継続していく。 ②成績処理等において、マニュアル通りに業務を遂行するよう体制を整え、事故・不祥事の根絶に向けた取組を徹底していく。	①学校運営協議会を活用して地域との交流を深めながら、小田原高校の存在意義をアピールしていくことで、外部機関との連携がさらに進むものと考える。 ②今後とも職員一人ひとりの意識啓発を深め、事故不祥事防止に努めてほしい。	①地域の人的・物的資源を活用し、より地域に密着した取組を進める必要がある。 ②成績処理等においてマニュアル通りに業務を進めるとともに組織的に点検する体制を整える等、事故・不祥事の根絶及び生徒・保護者、県民の信頼回復に向けた取組を強化していく。	①学校運営協議会の部会の活動をさらに活性化し、新たな取組を一つずつ増やしていく。 ②日常的に職員への意識啓発を継続するとともに各種マニュアルの確認体制を強化し、職員一人ひとりの事故・不祥事防止への意識を高める。